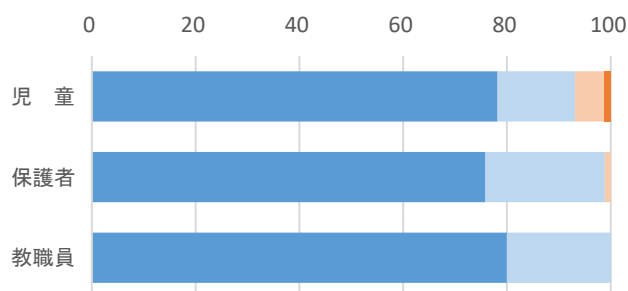


質問 1 全般 に関する項目

- (児 童) あなたは、毎日楽しく学校に通うことができますか。
 (保護者) お子さんは、楽しく学校に通っていますか。
 (教職員) 子ども達は、楽しく学校に通っていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
1	A	B	C	D
児 童	78.2	14.9	5.7	1.1
保護者	75.9	23.0	1.1	0.0
教職員	80.0	20.0	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○全体としての肯定的な意見は児童93.1%，保護者98.9%，教職員100%と非常に高い水準であることから、多くの児童は毎日楽しく学校に通っており、そのことを保護者も教職員も同様に感じているといえる。

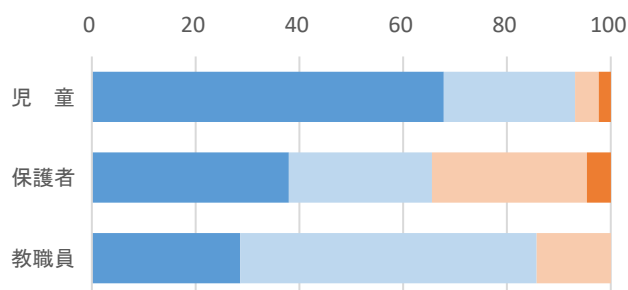
●個別にみると、学年によってB群及びC群の割合が高いところがある。児童の抱える不安や不満、悩みなどを、学校あるいは家庭で見逃している（気づくことができていない）可能性がある。個々の児童の見取りと集団における児童の見取り、学習活動等での児童の学びの姿から多面的・多角的に児童を捉え、児童の行い（表現、意図）に対して意味づけたり価値づけたりすることで、自己肯定感を高めていくことが必大である。

質問 2 全般 に関する項目

- (児 童) あなたは今、将来の夢や目標を持って生活していますか。
 (保護者) お子さんは、現在夢や目標を持って生活していますか。
 (教職員) 子ども達は、現在夢や目標を持って生活していますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
2	A	B	C	D
児 童	67.8	25.3	4.6	2.3
保護者	37.9	27.6	29.9	4.6
教職員	28.6	57.1	14.3	0.0

(%)



<学校コメント>

○全体としての肯定的な意見は児童93.1%，教職員85.7%と高い水準にある。学校は、児童が夢や目標を考えたり、語ったりする場を設定しやすい環境でもあることから、このような評価が得られていることが推察される。

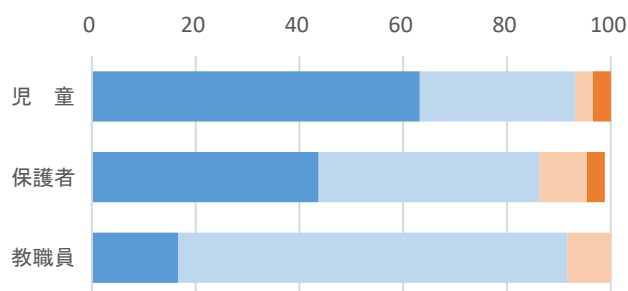
●保護者の肯定的な意見が65.5%と、児童及び教職員の評価に比べ低くなっている。学校での学びの姿を学級便り等を通して家庭に還元していくことをきっかけとして、親子で将来の夢や今抱えている目標へと話題を広げていくことが可能となる。児童の思いややる気を家庭・学校が共に受け止め、認め、励ますことで、児童・家庭・学校が協働的に高まり合える環境・地域づくりに努めていきたい。

質問 3 学習に関する項目

- (児 童) あなたは、授業は分かりやすいですか。
 (保護者) お子さんは、授業が分かりやすいと言っていますか。
 (教職員) 子どもたちは、授業が分かりやすいと言っていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
3	A	B	C	D
児 童	63.2	29.9	3.4	3.4
保護者	43.7	42.5	9.2	3.4
教職員	16.7	75.0	8.3	0.0

(%)



<学校コメント>

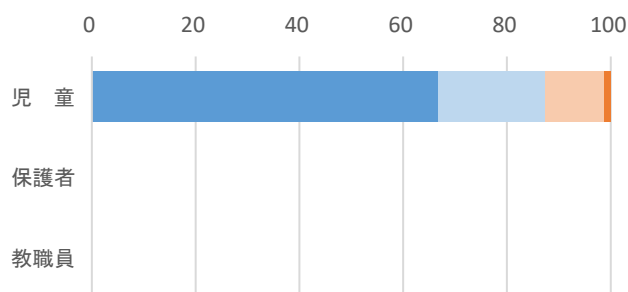
○肯定的な意見は児童93.1%，保護者86.2%，教職員91.7%と高い水準であることから、学校ではおおむね「分かる」授業が展開されているということがいえる。
 ○C群の教職員が8.3%となっているが、これは、児童によりよい授業を提供したいという意識の表出であると捉えている。
 ●C群及びD群が児童6.8%，保護者12.6%となっている。個別最適な学びの実現に向けて、児童及び保護者の教育的ニーズの把握に努めるとともに、家庭と学校が情報交換をより密に行い、協働して児童の支援にあたる環境づくりに努めることが大切である。

質問 4 学習に関する項目

- (児 童) あなたは、授業では話し合い活動に積極的に取り組んでいますか。
 (保護者) 【※ 児童のみ回答】
 (教職員) 【※ 児童のみ回答】

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
4	A	B	C	D
児 童	66.7	20.7	11.5	1.1
保護者				
教職員				

(%)



<学校コメント>

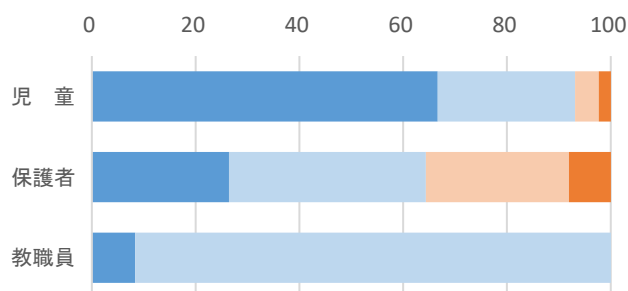
○児童の肯定的な意見が87.4%となっている。自分の思いや考えを相手に話すことについては一定程度できているといえる。
 ●今後は、話し合う活動をさらに深めた「聴き合う」活動を志向していきたい。「聴く」ことにより、自身の考えをより広げたり、より深めたりしていくことが可能となる。また、「聴いてくれている」ことが前提の活動であるので、より丁寧に「伝える」ことに意識を広げていくことも可能となる。「聴く」力を高めることで、表現力及びコミュニケーション力の向上につなげていきたい。

質問 5 学習に関する項目

- (児 童) あなたは、家庭学習を毎日目標時間以上していますか。
 (保護者) お子さんは、毎日決められた時間以上家庭学習をしていますか。
 (教職員) 子どもたちは、毎日決められた時間以上家庭学習をしていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
5	A	B	C	D
児 童	66.7	26.4	4.6	2.3
保護者	26.4	37.9	27.6	8.0
教職員	8.3	91.7	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

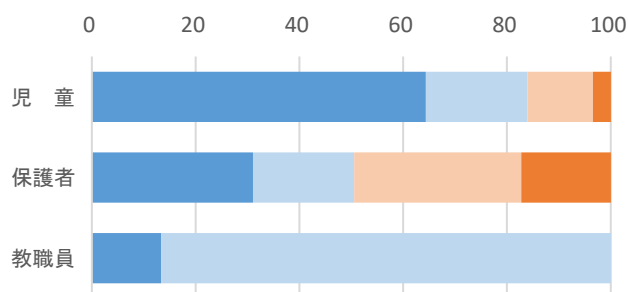
○肯定的な意見は児童93.1%，教職員100%となっており、「家庭学習のきまり」をおおむね各学年で意識をして取り組んでいるといえる。
 ●保護者の肯定的な意見は64.3%である。児童の意見と大きく乖離している。①児童が家庭学習に取り組む姿を日常的に捉えての評価、②児童が家庭学習に取り組む姿を実際には見ていないが、取り組んだもの（ノート、プリント等）から推察した評価、③家庭学習に取り組んだ時間ではなく、学習の内容を重視した評価 等、児童と保護者の意見の相違の要因を明確にしていくことで、より効果的な家庭学習のあり方や取り組み方を工夫していく。

質問 6 学習に関する項目

- (児 童) あなたは、進んで本を読み読書を習慣にしていますか。
 (保護者) お子さんは、読書の習慣はありますか。
 (教職員) 子どもたちは、読書の習慣はありますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
6	A	B	C	D
児 童	64.4	19.5	12.6	3.4
保護者	31.0	19.5	32.2	17.2
教職員	13.3	86.7	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

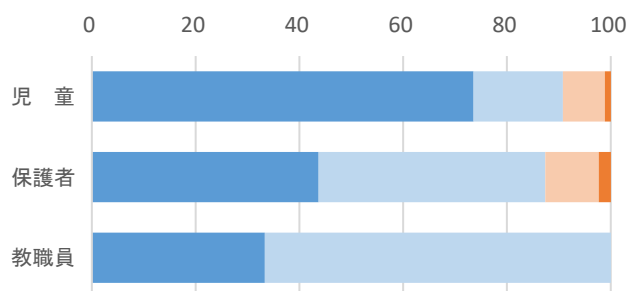
○肯定的な意見は児童83.9%，教職員100%となっており、学校での朝の読書などに取り組んでいることが評価として表れていることが推察される。
 ●保護者の肯定的な意見は50.5%である。読書「習慣」となると、学校で「設定されている」読書とは、一線を画す扱いになると考えられる。
 ●家庭・学校で、読書のもつ価値について改めて向き合うこと、そして、家庭でも読書の時間を「設定する」ところから始めていくことで、徐々に習慣化を図る取り組みへと育てていく環境づくりを進めることなど、できることから実践化していきたい。

質問 7 礼儀・思いやりに関する項目

- (児童) あなたは、周りの人に進んで気持ちの良いあいさつをしていますか。
 (保護者) お子さんは、気持ちの良いあいさつをすることができますか。
 (教職員) 子どもたちは、気持ちの良いあいさつをすることができますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
7	A	B	C	D
児童	73.6	17.2	8.0	1.1
保護者	43.7	43.7	10.3	2.3
教職員	33.3	66.7	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

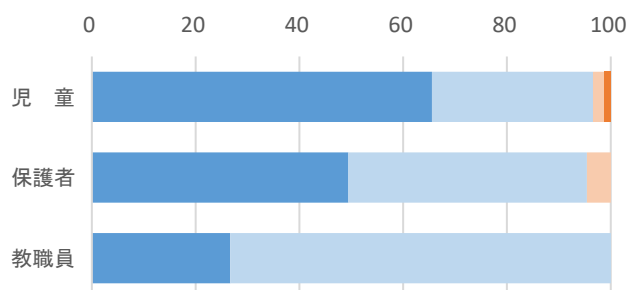
○肯定的な意見は児童90.8%, 保護者87.4%, 教職員100%と高い水準であることから、相手にとって気持ちの良いあいさつをすることがおおむねできているといえる。
 ●C群及びD群の児童9.1%, 保護者12.6%の評価の意味を検討することも大切である。C群やD群ではなくとも、声の大きさであったり、あいさつをするときの態度・ふるまいであったり、個によってさまざまな課題が表出することが考えられる。それら一つ一つを、相手の状況や気持ちを考えて実践していくことで、相手への敬意（相手を大切にすること）の表現につながることに気づけるようにしていきたい。

質問 8 礼儀・思いやりに関する項目

- (児童) あなたは、学校や家庭・社会のきまりを守って生活できていますか。
 (保護者) お子さんは、社会のきまりを守って生活できていますか。
 (教職員) 子どもたちは、社会のきまりを守って生活できていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
8	A	B	C	D
児童	65.5	31.0	2.3	1.1
保護者	49.4	46.0	4.6	0.0
教職員	26.7	73.3	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

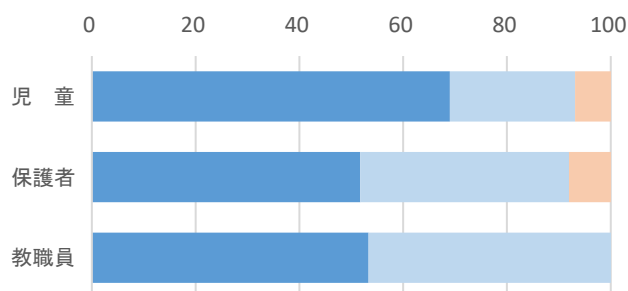
○肯定的な意見は児童96.5%, 保護者95.4%, 教職員100%と非常に高い水準であることから、児童は学校・家庭において、一定程度社会のきまりを守って生活しているといえる。
 ○人は環境で育つ。大人がそうなのだから、児童はなおのことである。児童の高評価は、周囲の大人の態度・ふるまいが良好であることの証左である。大人と児童の好循環を今後も継続していくことができるよう、大人がリーダーシップを発揮して取り組んでいきたい。

質問 9 礼儀・思いやりに関する項目

- (児童) あなたは、どんな人にも思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること、
 (保護者) お子さんは、思いやりを持って接することができますか。
 (教職員) 子どもたちは、思いやりを持って接することができますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
9	A	B	C	D
児童	69.0	24.1	6.9	0.0
保護者	51.7	40.2	8.0	0.0
教職員	53.3	46.7	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

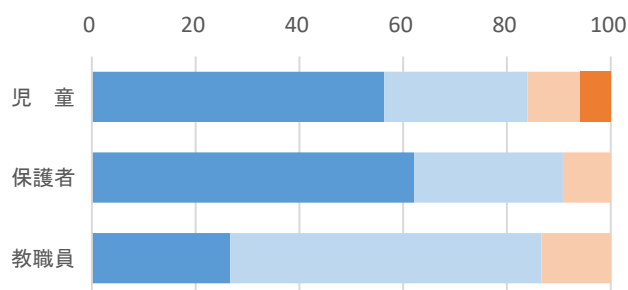
○肯定的な意見は児童93.1%，保護者91.9%，教職員100%と非常に高い水準であることから、児童は一定程度思いやりを持って接することができるといえる。
 ●思いやりは、双方向の敬意によって成り立つ価値である。「～してあげた」のように一方の敬意でとどまることのないよう、今後も児童の言動・ふるまい・所作・表情等を丁寧に見取りながら対応していきたい。

質問10 健康・運動に関する項目

- (児童) あなたは、決まった時間に寝たり起きたりして規則正しい睡眠をとることができますか。
 (保護者) お子さんは、規則正しい睡眠がとれていますか。
 (教職員) 子どもたちは、規則正しい生活ができていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
10	A	B	C	D
児童	56.3	27.6	10.3	5.7
保護者	62.1	28.7	9.2	0.0
教職員	26.7	60.0	13.3	0.0

(%)



<学校コメント>

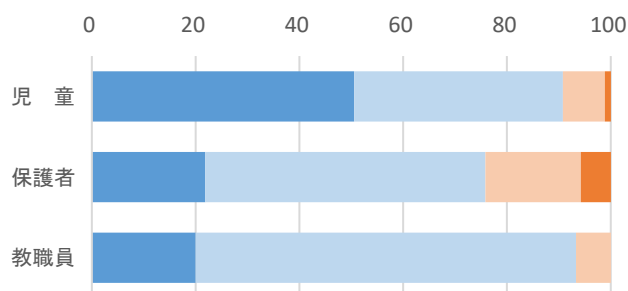
○肯定的な意見は児童83.9%，保護者90.8%，教職員86.7%となっており、全体的には良好な評価のように見える。
 ●学年を個別に見ると、全学年でC群の児童が存在していることもあり、発達の観点からも至急改善が求められる項目である。
 ●保護者の評価よりも児童の評価の方が低くなっていることから、家庭内でのコミュニケーションの機会を増やしたり、家庭のきまりを再確認したりするなど、学校からも促していくことが求められる。その際、生活リズムと心身の発達の相関関係についても情報を提供するなど、目的意識を明確にして取り組むことが大切である。

質問11 健康・運動に関する項目

- (児童) あなたは、おやつなどの間食をひかえ、食事は好き嫌いなく食べていますか。
 (保護者) お子さんは、間食を控え、バランスの良い食事をとっていますか。
 (教職員) 子どもたちは、間食を控え、バランスの良い食事をとっていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
11	A	B	C	D
児童	50.6	40.2	8.0	1.1
保護者	21.8	54.0	18.4	5.7
教職員	20.0	73.3	6.7	0.0

(%)



<学校コメント>

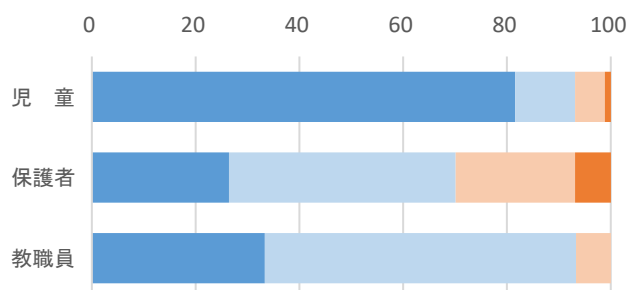
- 肯定的意見は児童90.8%, 保護者75.8%, 教職員93.3%となっており、対象間で評価にばらつきが見られる。
 ○学校給食では、好き嫌いなくバランス良く食べること(食物アレルギーを除く)となっていることから、児童及び教職員の評価は高い水準となっているといえる。
 ●家庭においては献立・食べる量・食材等学校給食に比べ自由度が高いこともあり、なかなかバランスの良い食事になりにくい傾向がある。間食が影響することもあるようだ。
 ●食事は心身の発達に大きな役割を果たすことを家庭・学校で再確認し、協働しながら現状の改善に努めたい。

質問12 健康・運動に関する項目

- (児童) あなたは、自分の体力を高めようとめあてを持って運動をしていますか。
 (保護者) お子さんは、めあてを持って運動をしていますか。
 (教職員) 子どもたちは、めあてを持って運動をしていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
12	A	B	C	D
児童	81.6	11.5	5.7	1.1
保護者	26.4	43.7	23.0	6.9
教職員	33.3	60.0	6.7	0.0

(%)



<学校コメント>

- 肯定的意見は児童93.1%, 保護者70.1%, 教職員93.3%となっており、対象間の評価にばらつきが見られる。
 ○運動会、水泳記録会、陸上大会、マラソン大会、なわとび記録会などの体育的行事では、児童はそれぞれのめあて達成に向けて尊い努力を積み重ねることができる。
 ●「体力の向上のため」「運動技能の向上のため」等、より広い視野から運動を捉える視点を育んでいく必要がある。そのためには教科体育において多様な運動に親しみ、経験を重ねることが大切である。

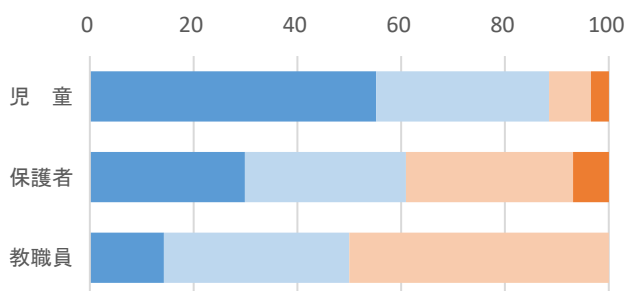
質問13 健康・運動に関する項目

- (児童) あなたは、家庭ではメディアコントロールのことを考え生活できていますか。
 (保護者) お子さんは、ご家庭でメディアコントロール※はできていますか。
 (教職員) 子どもたちは、家庭でのメディアコントロール※はできていますか。

(※ゲーム、動画視聴は1日1時間以内。ノーメディアデーの日は0時間)

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
13	A	B	C	D
児童	55.2	33.3	8.0	3.4
保護者	29.9	31.0	32.2	6.9
教職員	14.3	35.7	50.0	0.0

(%)



<学校コメント>

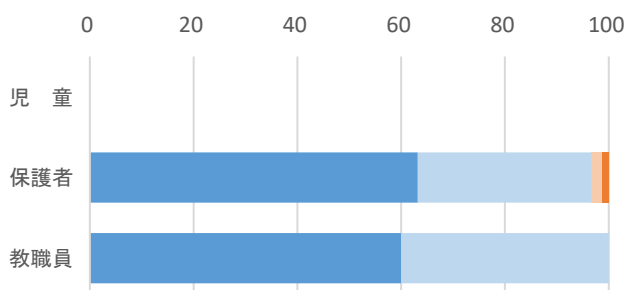
○肯定的な意見は児童88.5%，保護者60.9%，教職員46.6%となっており，対象間の評価のばらつきが大きい。
 ●なぜメディアコントロールに取り組むのか，その意義を家庭で確認する必要がある。
 ●児童の評価と保護者の評価が乖離していることから，家庭において改めてきまりの確認をお願いしたい。その際，学校から毎月メディアコントロールのふり返りを集約したお便りを配付しているので，他の家庭の取り組みを参考にするなど，各家庭の主体的な取り組みを期待したい。

質問14 学校運営に関する項目

- (児童)
 (保護者) 先生は、子ども一人一人の様子をとらえ，その子の努力を認めて生かすように努めていますか。
 (教職員) 子ども一人一人の様子をとらえ，その子の努力を認めて生かすように努めていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
14	A	B	C	D
児童				
保護者	63.2	33.3	2.3	1.1
教職員	60.0	40.0	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的意見が保護者96.5%，教職員100%と非常に高い水準である。教職員の児童の成長への期待を保護者も同じように感じていることがうかがえる。
 ●保護者のC・D群に3.4%の評価があった。「子どもは絶えずよりよくなろうとしている」「子どもは絶えず分かってい／できるようになりたいと思っている」ことを前提として，個別最適なよりよい支援のあり方を模索し続けていくことが大切である。

質問15 学校運営に関する項目

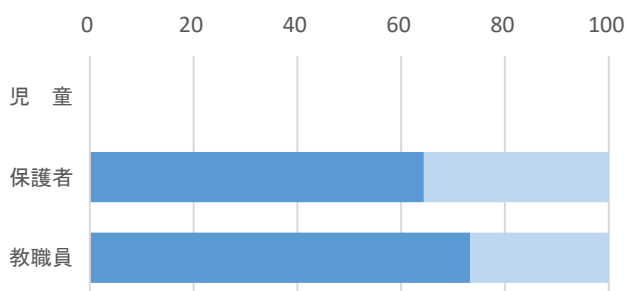
(児童)

(保護者) 学校は、いじめがない温かな学級づくりに努めていますか。

(教職員) いじめがない温かな学級づくりに努めていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
15	A	B	C	D
児童				
保護者	64.4	35.6	0.0	0.0
教職員	73.3	26.7	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者100%，教職員100%であった。

●「いじめはいつでも起こり得る」ことを前提として，絶えず多面的・多角的に学級の様子を捉えようとする意識を持ち続けていくことが大切である。

質問16 学校運営に関する項目

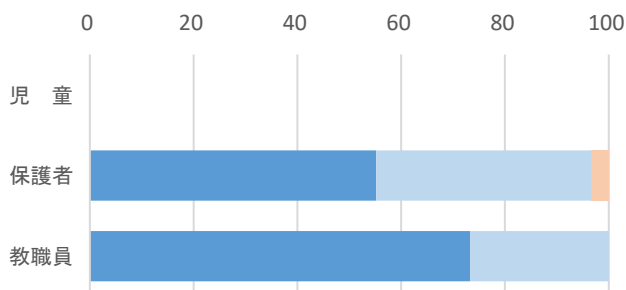
(児童)

(保護者) 学校は、お子さんの悩みや相談に対して親身になって対応していますか。

(教職員) 子どもたちの悩みや相談に対して親身になって対応していますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
16	A	B	C	D
児童	0.0	0.0	0.0	0.0
保護者	55.2	41.4	3.4	0.0
教職員	73.3	26.7	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者96.6%，教職員100%であった。

●保護者のB群の数値が高めであること，C群に3.4%の評価があることから，保護者の意見は全体としては肯定的ではあるが，不安定さを伴っていることも事実であるといえる。教職員一人一人の意識のもちょうも大きく関係してくる項目であるので，教職員が協働・連携して組織的に生徒指導に携わっていくことが大切である。

質問17 学校運営 に関する項目

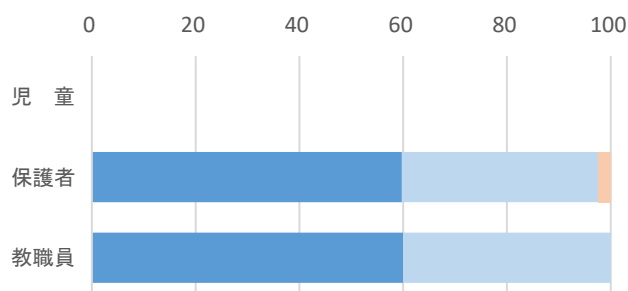
(児 童)

(保護者) 学校は、保護者や地域の要望に迅速に対応していますか。

(教職員) 保護者や地域の要望に迅速に対応していますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
17	A	B	C	D
児 童				
保護者	59.8	37.9	2.3	0.0
教職員	60.0	40.0	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者97.7%，教職員100%であった。

○保護者及び教職員の両者がほぼ同じような評価をしていることから、学校は保護者や地域の要望に対して真摯に対応しているといえる。

●本項目は、コミュニティスクールの機能を最大化していくための柱となる項目である。学校は、保護者や地域からのあらゆる要望に応えることは難しいが、丁寧に説明をし、理解を得ていくよう努めることが大切である。

質問18 学校運営 に関する項目

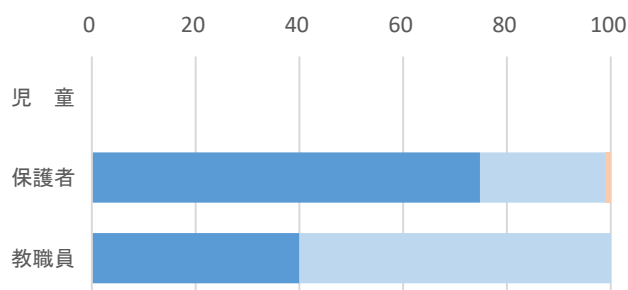
(児 童)

(保護者) 学校は、教育活動の様子を各種便りや、学校ホームページ等で分かりやすく伝えていますか。

(教職員) 教育活動の様子を各種便りや、学校ホームページ等で分かりやすく伝えていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
18	A	B	C	D
児 童				
保護者	74.8	24.1	1.1	0.0
教職員	40.0	60.0	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者98.9%，教職員100%であった。

○学校ホームページの更新を楽しみにしているとの保護者からの声が多数上がっている。学習活動等学校生活の様子を知ることができているとのことである。

●地域とともにある学校として、持続可能な取り組みの方向性について、情報発信のあり方を工夫していくことが大切である。

質問19 学校運営 に関する項目

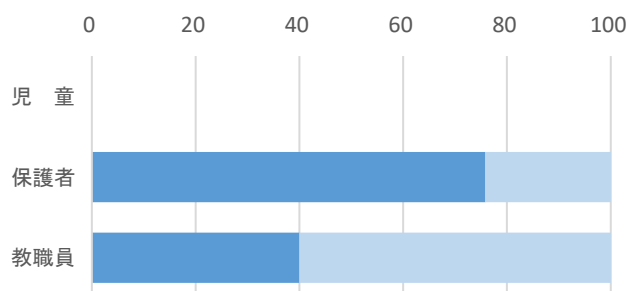
(児 童)

(保護者) 学校は、教育環境を整備し、美化・安全管理に気を配っていますか。

(教職員) 教育環境を整備し、美化・安全管理に気を配っていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
19	A	B	C	D
児 童				
保護者	75.9	24.1	0.0	0.0
教職員	40.0	60.0	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者・教職員ともに100%であった。特にA群の評価が保護者の方が高かったことは、価値があると考えている。

○校庭の樹木等の整備、移動式スロープの設置、インターホンの設置など、安全面に対する長年の懸念を解消する支援をいただくことができた。

●地域とともにある学校として、持続可能な取り組みのあり方について、今後も模索していくことが大切である。

質問20 学校運営 に関する項目

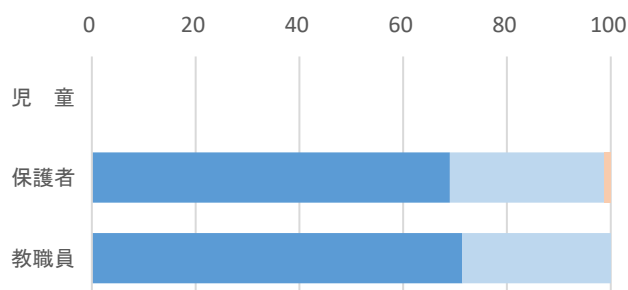
(児 童)

(保護者) 学校は、PTA、地域、関係機関との連携を適切に行っていますか。

(教職員) PTA、地域、関係機関との連携を適切に行っていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
20	A	B	C	D
児 童				
保護者	69.0	29.9	1.1	0.0
教職員	71.4	28.6	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者98.9%，教職員100%であった。

○学校支援ボランティアや外部講師による活動支援や特別体験活動の実施、関係諸機関と連携した児童支援など、専門的な見地からの活動支援・児童支援をいただきながら学校運営にあたることができた。

○PTA奉仕作業や資源回収では、地域総出で協力をいただいたおかげで、学習環境が整備されるとともに、学習活動支援費が充実した。

質問21 その他 に関する項目

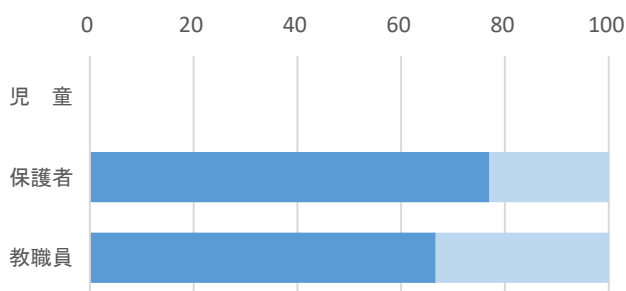
(児 童)

(保護者) 学校は、命の大切さを教え、健康や安全を意識した生活ができるよう健康教育や防災教育に力を入れている。

(教職員) 命の大切さを教え、健康や安全を意識した生活ができるよう健康教育や防災教育に力を入れている。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
21	A	B	C	D
児 童				
保護者	77.0	23.0	0.0	0.0
教職員	66.7	33.3	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者・教職員ともに100%であった。特にA群の評価が保護者の方が高かったことは、価値があると考えている。

○今年度、校内研修で道德教育を深めたことから、児童は命を大切にすること、自然と共生を図ること等視野を広げて考えることができている。

●全体として高評価となっているが、ともすれば命に関わる大きな事故につながる可能性のある事案があったことも事実である。ハインリッヒの法則を参考にしながら、学校からも情報を発信することで地域を挙げて児童の命・安全を守る雰囲気を高めていきたい。

質問22 その他 に関する項目

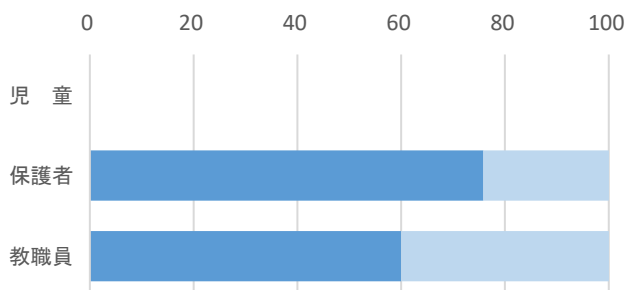
(児 童)

(保護者) 学校は、様々な体験的な活動を取り入れ、自然や地域社会と深く関わる機会を設けている。

(教職員) 様々な体験的な活動を取り入れ、自然や地域社会と深く関わる機会を設けています。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
22	A	B	C	D
児 童				
保護者	75.9	24.1	0.0	0.0
教職員	60.0	40.0	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者・教職員ともに100%であった。特にA群の評価が保護者の方が高かったことは、価値があると考えている。

○学校畑の活用には、地域の農家の方の支援、学校支援ボランティアの支援をいただきながら、野菜を栽培・収穫し、いただくまでの体験活動に取り組むことができた。

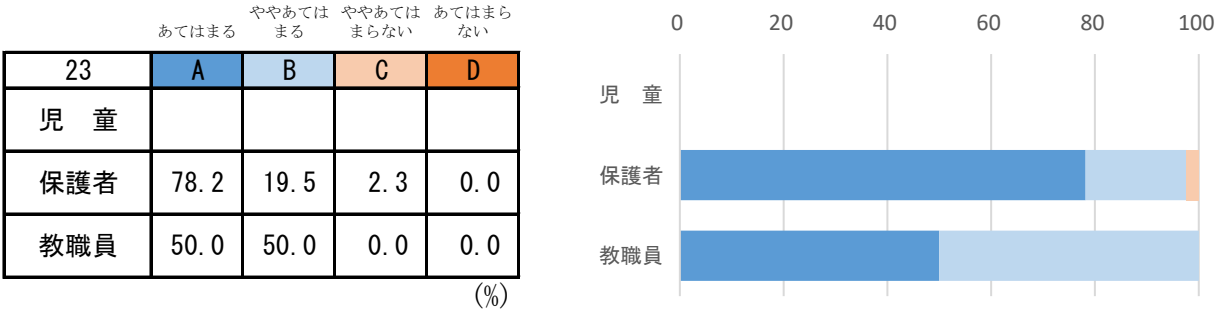
○全校遠足を学年ブロック単位で実施することで、児童の実態に応じたコースの設定が可能となり、地域の自然や文化に身体全体で親しむことができた。

質問23

その他

に関する項目

- (児 童)
- (保護者) 学校は、地域の人々や専門家による指導など多くの人と触れあい学ぶ活動を行って
- (教職員) 地域の人々や専門家による指導など多くの人と触れあい学ぶ活動を行っていますか。



<学校コメント>

○肯定的な意見は、保護者97.7%，教職員100%であった。

○毎日児童の通学路の安全を守ってくださる駐在所警察官・地区交通安全協会の方々・各地区区長様，長年の懸案事項だった移動式スロープの設置に尽力くださった学校支援ボランティアの方々，学校畑を絶えず気にかけてくださる農家の方々・学校支援ボランティアの方々，生活科・社会科見学で快く児童の見学を引き受けてくださった地域のお店・企業の方々，奉仕作業や資源回収では地域総出で取り組んでくださるなど，学校の諸活動は地域の人々からのお力添えをいただくことで進めることができた。心より感謝申し上げる次第である。